

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークの標本救済ネット

2011年6月17日

倉敷市立自然史博物館 狩山俊悟

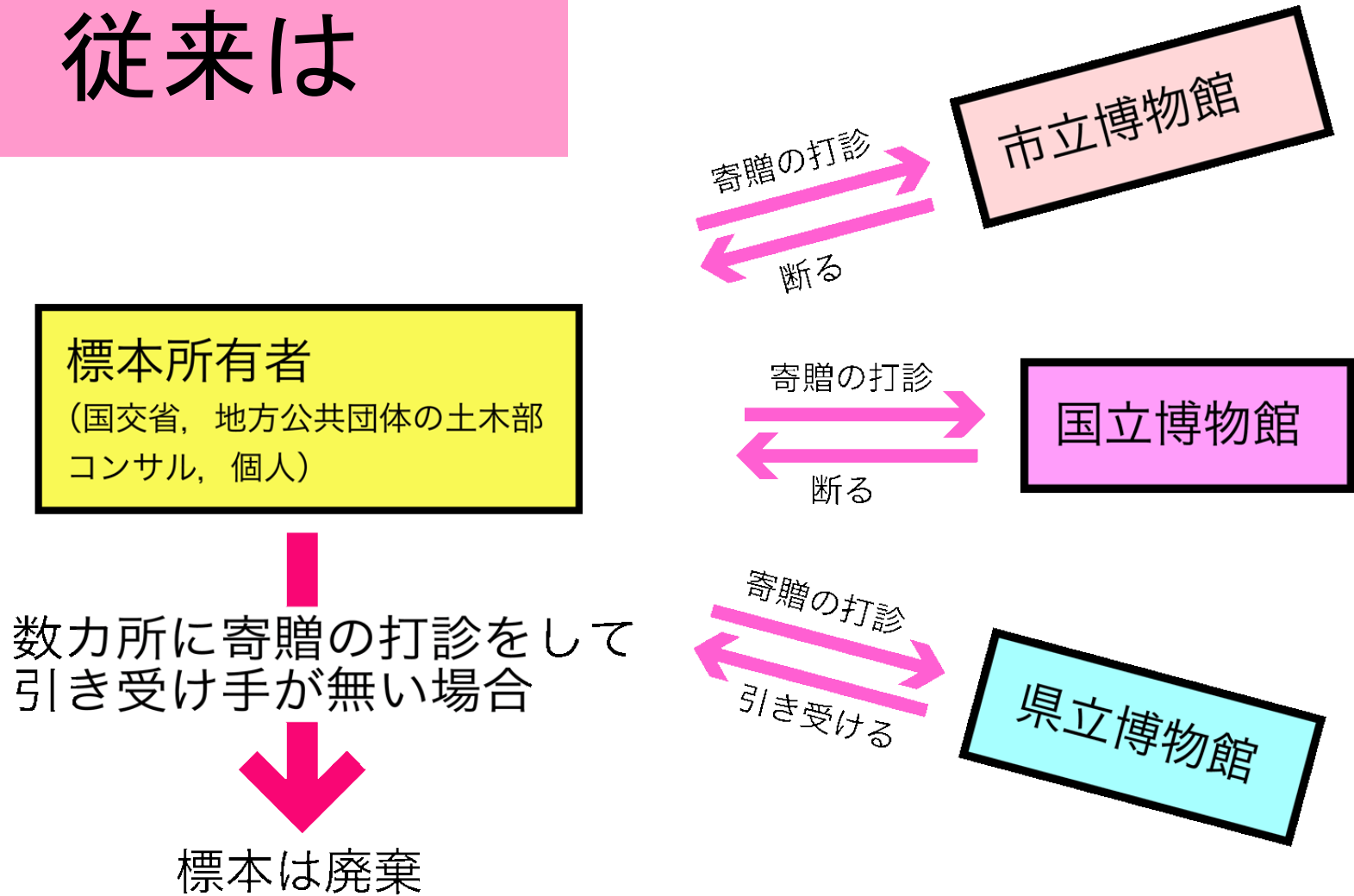
muskari@city.kurashiki.okayama.jp

(西日本自然史系博物館ネットワーク
標本救済ネット担当)

これまでの動き

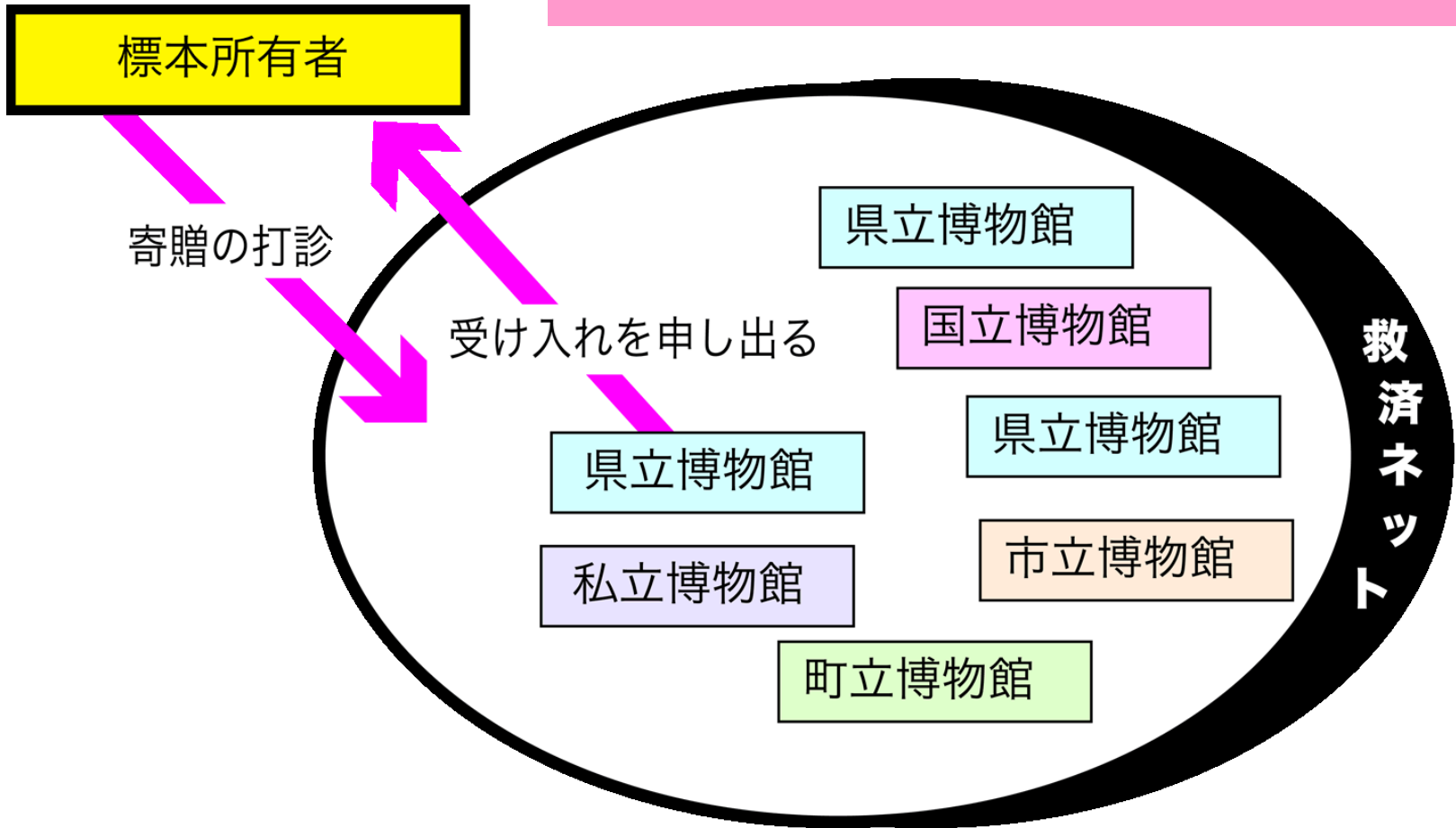
- 2008年2月18日
第1回標本救済ネット(仮称)ワークショップ
- 2008年6月5日
第2回標本救済ネット(仮称)ワークショップ
- 2009年6月12日
第13回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会
- 2010年7月12日
第3回標本救済ネット研究会
- 2011年2月6日
西日本自然史系博物館ネットワーク2011年総会

従来は



わずかな標本庫にしか打診できないので
行き場が見つからないケースも多い

救済ネット設立後



情報が集まる場を作ることにより、効率的に受け入れ機関を見つけることができる

標本救済ネットとは

- ・寄贈標本についての情報を一元化
- ・受け入れ可能施設の探索を容易に
- ・有用な標本の消失や散逸を防ぐ

寄贈標本の受け入れ先探しの場

寄贈する側の問題点・要望

- ・寄贈した標本が将来どのように扱われるのか不安
- ・受け入れ可能な機関と分野などの情報がほしい
- ・マウントした状態で寄贈するためには、あらかじめ調査マニュアルや仕様書に書かれている必要がある

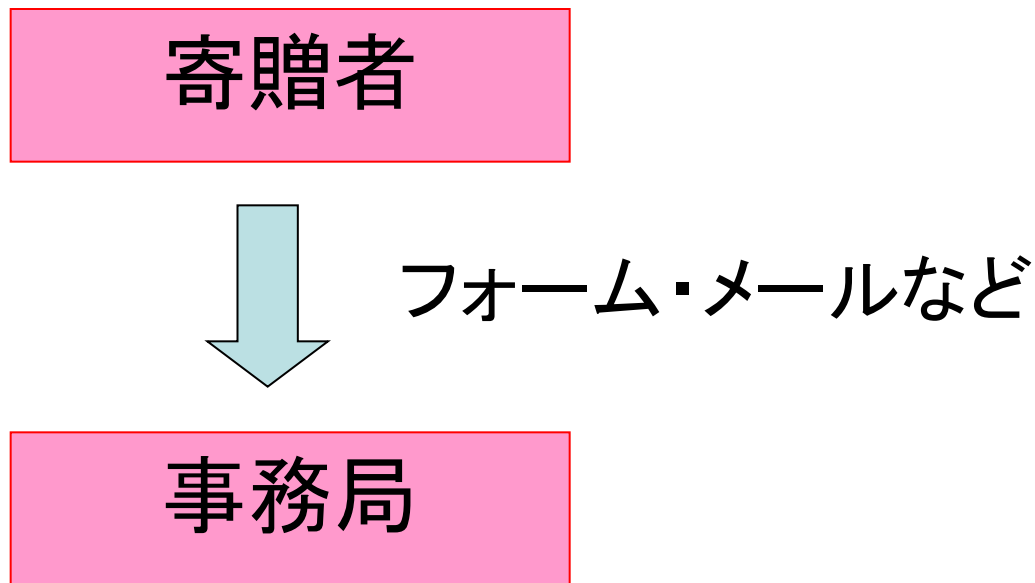
受け入れる側の問題点・要望

- 整理のためのコスト(費用, 人, 時間)
- 収蔵スペース
- 博物館の活動・機能としての認識・認知の低さ
(行政内や一般)・・・いまだに「倉庫」と呼ぶ
- モチベーション
- 標本の質は？
- 受け入れ側の判断で廃棄可？

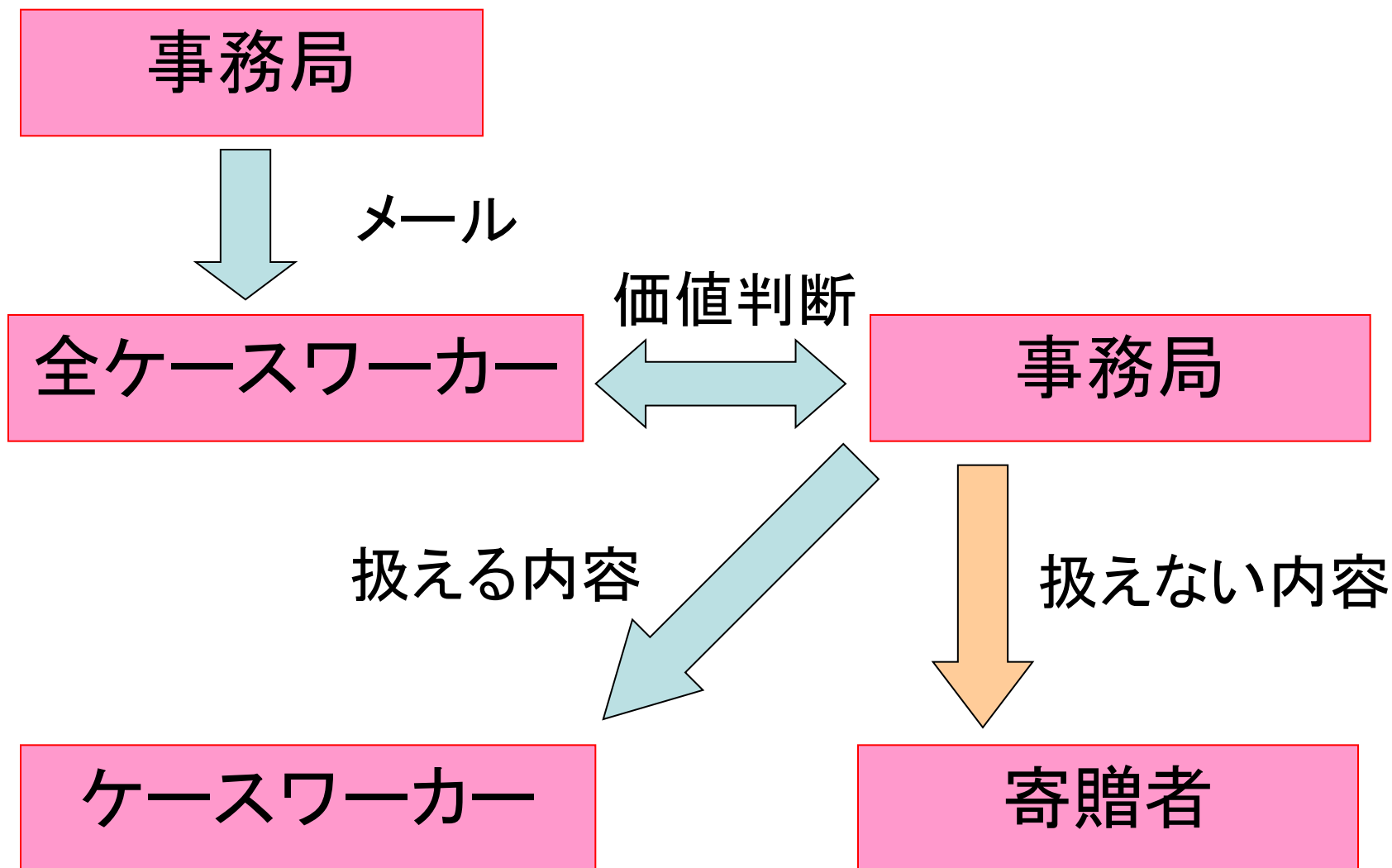
受け入れるための条件

- 整理費用
- 標本の質
- 標本の破棄やデータの公開についての合意
- 手続き(書類)の整備

■ 標本受け入れまでのフローチャート(案)

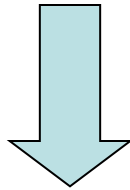


■ 標本受け入れまでのフローチャート(案)



■ 標本受け入れまでのフローチャート(案)

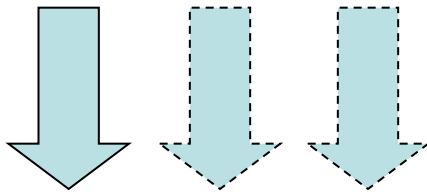
ケースワーカー



メーリングリスト

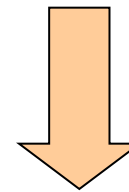
ML登録施設

申し出あり



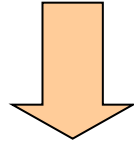
ケースワーカー

申し出なし

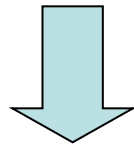


■ 標本受け入れまでのフローチャート(案)

申し出なし



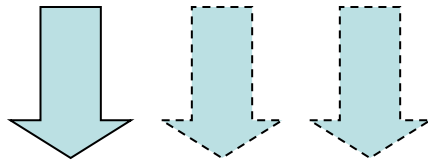
ケースワーカー



斡旋

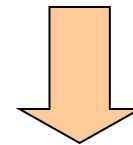
他のコミュニティ

申し出あり



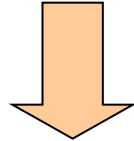
ケースワーカー

申し出なし

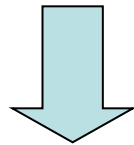


■ 標本受け入れまでのフローチャート(案)

申し出なし

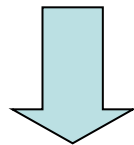


ケースワーカー



メール

事務局



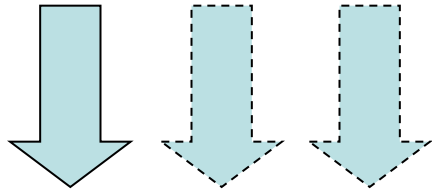
受け入れ先見つからずと連絡

寄贈者

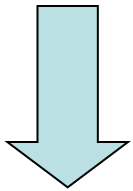
■ 標本受け入れまでのフローチャート(案)

ML登録施設・他のコミュニティ

申し出あり



ケースワーカー



寄贈者

申し出が単独のときはケースワーカーが寄贈者に受け入れ先を回答する。複数のときはケースワーカーが標本受け入れのガイドラインに基づいて適宜調整する。

標本受け入れのガイドライン(案)

- ①寄贈者の意向(展示してほしい, できるだけ大きな機関が良いなど)を尊重すること
- ②できるだけ地元を優先すること
- ③できるだけ多くの標本が残されること
- ④博物館側の意思で標本の廃棄ができること
- ⑤必要に応じ標本受け入れの確認書を交わすこと

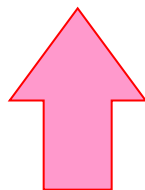
事務局とケースワーカー

- ①事務局：西日本自然史系博物館ネットワーク理事会の構成メンバーを中心に
- ②地学：
- ③植物：
- ④昆虫：
- ⑤その他無脊椎動物：
- ⑥脊椎動物：

標本救済ネットの課題

■ ホームページの公開

- ・ 寄贈者が「標本をどこに収めるのが良いのか」を自力で見つけられるように
- ・ そのために、各博物館の得意分野、地域、などのプロフィールを公開することが必要



研究員・学芸員検索

標本救済ネットの課題

■ ホームページの公開

- ・ 寄贈申し出入カフォーマット

 - 寄贈者に関すること

 - 調査に関すること ← 環境調査に伴う標本の場合

 - 標本に関すること

 - 寄贈の条件

2011年8月ごろをめぐりに立ち上げ

標本救済ネットの課題

■ ケースワーカーの人選

分野, 地域

■ メーリングリストの運用

博物館, 大学等との連携

■ 受け入れのための環境整備

標本作りの技術講習

■ 関係学会等との連携

標本救済ネットの課題

■ 国立科学博物館との役割分担

■ 柔軟で小回りのきく体制作り

NPOならではの利点を生かす

■ 試行を重ねながら、改良

標本授受に関する手続き、各種様式の例示など